

- 1 課題名 資源管理体制・機能強化総合対策事業(イサキ)
- 2 区分 国庫補助
- 3 期間 平成13年度～平成23年度
- 4 担当 資源海洋部(土居内 龍)
- 5 目的

イサキは紀南沿岸域において一本釣り漁業の重要魚種の一つであるが、近年漁獲量が減少しており、資源状態の悪化が危惧されている。本事業ではイサキを対象とした資源回復計画の策定と進行管理のため、資源状況のモニタリングおよび生物学的特性の解明を目的とする。

6 成果の要約

(1) 資源状況のモニタリング

ア 和歌山県農林水産統計年報により漁獲量と漁獲金額の経年変化を調査した。2005年の累計漁獲量は約370トンであり、前年に比べて約1.4倍に増加した(図1)。まき網による漁獲量の増加が主な要因と考えられる。

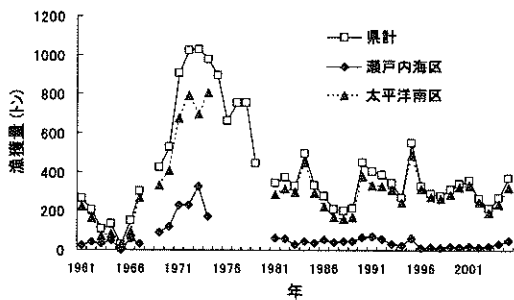


図1 イサキ漁獲量の経年変化

イ 田辺漁協と印南町漁協について、一本釣りの水揚げ統計の記帳を依頼し、漁獲量と努力量を調査した。2006年度の漁獲量は、田辺漁協は約54トンで前年比1.1倍、印南町漁協は約10トンで前年比0.9倍であった。CPUE(漁獲量/隻数)の周年変化は図2に示した通りである。

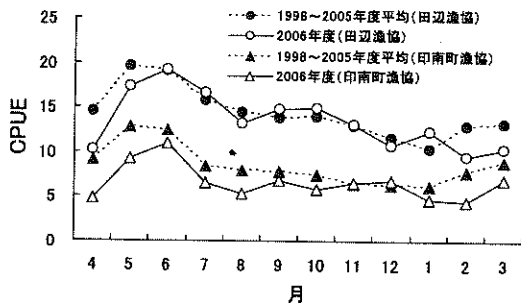


図2 田辺漁協と印南町漁協におけるイサキCPUEの周年変化

ウ 田辺漁協と南部町漁協において、一本釣りで漁獲したイサキ計8,244尾の尾叉長を測定した。太平洋南

区では、一本釣り漁業者を対象に、全長18cm以下の個体を自主的に再放流する資源管理計画が、2003年5月より実施されているが、2006年5月からは、全長20cm以下を再放流する資源回復計画に変更された。1998～2002年度(計約21万尾)、2003～2005年度(計約10万尾)および2006年度の尾叉長組成によると、それぞれ22、23、24cmにピークがみられており(図3)、再放流の実施および再放流基準尾叉長の大型化に伴って、漁獲物も大型化していた。

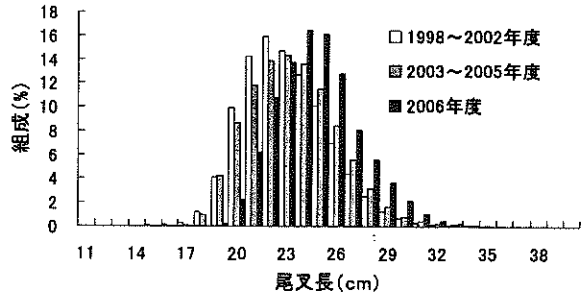


図3 イサキ漁獲物の尾叉長組成

(2) 生物学的特性の解明

1998年5月から2006年9月に、日高・西牟婁地区で漁獲された1,071個体を用い、耳石横断面の輪紋を計数することによって、年齢と成長を調査した。その結果、最高で21歳の個体が確認され、イサキは従来の知見より成長が遅く、寿命が長いことが分かった(図4)。

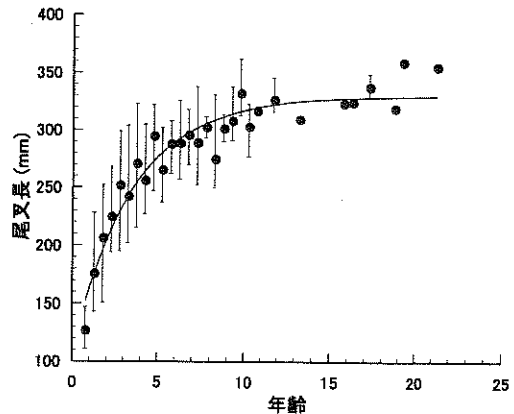


図4 イサキの年齢と成長の関係

7 成果の取り扱い

(1) 成果の普及

資源回復計画作成推進事業太平洋区漁業種類別漁業者協議会および同和歌山海区漁業者協議会において発表を行った。

(2) 成果の発表

日本水産学会近畿支部後期例会、水産試験場成果発表会において口頭発表を行った。また Fisheries Science に論文を発表した(73(4):777-783, 2007)。